

令和 2 年 5 月 26 日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12029

研究課題名(和文) 膠原病患者の外来におけるセルフマネジメントの現状及び介入効果の多角的検討

研究課題名(英文) A multi-faceted study of the self-management of outpatients with collagen disease and the effect of intervention

研究代表者

松浦 江美 (MATSUURA, Emi)

長崎大学・医歯薬学総合研究科(保健学科)・准教授

研究者番号：20363426

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：患者は、疾患活動性が低く日常生活動作に困難さを感じていなくても身体的な側面におけるQOLが障害されている可能性が示唆された。また、リウマチケア看護師の提供する看護への自信の程度は、感染予防が 69.3 ± 19.6 で最も高く、口腔ケアが 40.3 ± 25.8 と有意に低かった。また、健常群と患者群ともに口腔ケアの介入前後において、歯周病チェックリストのチェック項目やプラークインデックスの減少傾向が認められた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

患者の自己管理に対する自信の程度を上げていくことが機能的・社会的寛解につながると考えられる。「口腔ケア」の支援は、外来において患者支援できるような看護の支援の方向性を検討する必要があると考える。特に、口腔内環境を清潔にする行為や口腔ケアを毎日の生活の中に取り入れることで歯周病の悪化を予防し、さらには歯周炎菌の増殖を予防することでRAの治療効果や悪化予防につなげることができると考える。

研究成果の概要(英文)： These results suggest that patients may have impaired physical QOL even though they have low disease activity and do not have difficulty in activities of daily living. In addition, the degree of self-confidence of rheumatology care nurses was highest at 69.3 ± 19.6 for infection prevention and significantly low at 40.3 ± 25.8 for oral care. In addition, the check items of the periodontal disease checklist and the plaque index tended to decrease before and after the oral care intervention in both the healthy group and the patient group.

Increasing patient confidence in self-management may lead to functional and social remission. As support for "oral care", it is important to incorporate the act of cleaning the oral environment and oral care into daily life.

研究分野：成人看護学

キーワード：膠原病 自己管理

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

我々は、これまで1980年代に米国・スタンフォード大学医学部患者教育センターで開発された慢性疾患セルフマネジメントプログラム(Chronic Disease Self-Management Program: CDSMP)が効果を示すメカニズムについて研究してきた。このプログラムは、このプログラムを受講した慢性疾患患者の7割に、(1)無理しなくて良い、(2)気持ちが楽になった、(3)病を受け入れられるようになった、(4)仲間との出会いを心強く思った、(5)病気だけのせいになくなった、などの感覚や感情変化をもたらし、このような変化を経験した患者は健康問題に対処する自己効力感を向上させている(Lorigら2015, Ritterら2014, Yukawaら2010)。

私達は、膠原病患者を対象にこのCDSMPプログラムを実施し、その有効性を評価するとともに、その効果発現メカニズムを客観的に検討するために、その前後で種々の神経・内分泌・免疫系活性物質の血中濃度を測定してきた。その結果、膠原病患者においてもCDSMPプログラムは、抗ストレスホルモンであるコルチゾールを低下させ、疼痛緩和効果を有する神経伝達物質であるβ-エンドルフィンを増加させることを明らかにした(Matsuura,2011)。

一方、従来より膠原病患者の医療の中心は外来であり、長期にわたり外来診療を継続している患者数が年々増加している。外来に通院している患者におけるアンケート調査では療養におけるさまざまな問題を抱えていることが明らかになっており、その8割がセルフケアに関するものである(金子ら2000)。現在、外来に通院している患者のセルフケアを獲得するための取り組みが重要な課題となっている。また、慢性疾患の中でも膠原病は、(1)未だに原因が不明で、疾患の理解が難しい、(2)疼痛や関節変形のため在宅での日常生活に工夫が必要である、(3)新たな免疫抑制薬や生物学的製剤の登場により治療が複雑化するとともに、自己管理が重要である、(4)ステロイド薬などの副作用への患者の主体的な対策が必要であるなど、患者が外来診療を継続していく上で、患者自身が精神的に、そして生活面でのセルフマネジメントを獲得するために、看護職が果たす役割は非常に大きい。

2. 研究の目的

膠原病患者において、1.セルフマネジメント(シンプトンマネジメント、ストレスマネジメント、サインマネジメント)の現状を明らかにする2.リウマチケア看護師が実施しているセルフマネジメントに関連する日常生活支援の現状と支援の実態を明らかにすること、3.健常人・関節リウマチ(RA)患者を対象として音波歯ブラシ使用前後の口腔ケアの効果について明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

<目的1>

(1)対象者：膠原病患者150名

(2)評価項目：

疾患に関する評価：疾患名、罹患歴、合併症、疾患活動性、罹病期間、診断から治療までの期間、関節破壊の程度、使用薬剤の種類・量、免疫・生理学的データ(IL-6、TNF-αなど)等

質問紙調査：セルフマネジメント〔ストレスマネジメント：自覚ストレス(JPSS,岩橋ら2002)、サインマネジメント：検査データ、自宅でのセルフモニタリング状況など、症状マネジメント：関節炎、倦怠感、発熱、自己注射の副作用などへの対処〕、QOL(SF-8,Turnerら2003)、日常生活動作(mHAQ,Pincusら1983)、セルフマネジメントに対する自信の程度(VAS)

<目的2>

(1)対象者：リウマチケア看護師1194名

(2)評価項目：無記名とした自己記入式質問紙調査を行った。

属性：登録後勤務年数、勤務施設、所属部署

質問紙調査：リウマチケア看護師として積極的に実施している内容、理想とする活動の有無とその理由

<目的3>

(1)対象者：健常人15名・RA患者3名

(2)評価項目：介入前後において、以下の評価を行った。

属性：年齢、性別、喫煙の有無、RA以外の合併症、仕事、収入、歯科受診、歯科指導経験、患者は治療内容(生物学的製剤使用の有無、種類、ステロイド服用の有無、量)

主観的データ：関節の痛みの場所と程度、感染予防策、健康状態、困難な整容動作、口の状態、歯みがきで困難を感じるところ、行う理由、口腔ケア：歯磨きの回数、タイミング、使用する道具、

測定データ：歯周病関連細菌、口腔内データ、口腔内評価(歯科医、看護師)、握力

倫理的配慮については、本研究は倫理審査委員会での承認を受け、研究の趣旨や自由意思での参加、対応表での情報管理では個人が特定されないよう十分配慮することを文書で説明し実施した。

4. 研究成果

<目的1>

有効回答は、145名であった。女性RA患者のPCSは43.0、MCSは50.42であり、疾患活動性が低く日常生活動作に困難さを感じていなくても女性RA患者の身体的な側面におけるQOLが障害されている可能性が示唆された。「PCS」は、mHAQと負の相関を示した。また、「MCS」は、セルフマネジメントの「ストレス」に対処する自信の程度、医療従事者との関係性に対する満足度と正の相関、mHAQと負の相関を示した。しかし、年齢、罹病期間、病期、機能障害の程度、生物学的製剤の有無などの医学的情報とは有意差は認めなかった。

女性RA患者の健康関連QOLを高めるためには、患者1人1人の身体的・精神的状態に合わせて日常生活に関する支援を行うとともに、患者と良好な関係性を形成することが必要である。また、我々医療者は、患者のセルフマネジメントに対する自信の程度を高めていくことにより機能的・社会的寛解につながると考えられる。

Table 1. Clinical characteristics of female RA patients (n=145)

	Variable	Mean ± SD	
Clinical characteristics	Age	60.6±12.7	
	Work	Housewife n (%)	74 (51.1%)
		Regular employment n (%)	18 (12.4%)
		Non-regular employment n (%)	26 (17.9%)
		Others n (%)	27 (18.6%)
	Disease duration (year)	12.4±9.7	
	Age diagnosed with RA	47.9±14.7	
	Steinbrocker's stage (I : II : III : IV)	51 : 27 : 25 : 42	
	Steinbrocker's class (1 : 2 : 3 : 4)	44 : 65 : 33 : 3	
	DAS28-CRP	2.6±1.0	
	mHAQ	0.3±0.5	
	Pain VAS (mm)	23.9±20.3	
	Biologics use n (%)	61 (42.1)	
	MTX use n (%)	98 (67.6)	
	DMARDs use n (%)	41 (28.3)	
	Glucocorticoids use n (%)	58 (40.0)	
Glucocorticoids (mg/day)	1.7±2.8		
Health related QOL	SF-8 PCS	43.0±7.9	
	MCS	50.4±6.3	
The degree of confidence in self-management	The degree of self-confidence to cope with symptom	58.4±27.1	
	The degree of self-confidence to cope with sign	58.5±24.7	
	The degree of self-confidence to cope with stress	57.1±26.3	
Satisfaction with the relationship with healthcare professionals		76.3±19.8	

RA : Rheumatoid arthritis

SF-8 : Short-Form 8

PCS : Physical Component Summary

MCS : Mental Component Summary

DAS28 : Disease activity score

mHAQ : modified Health Assessment Questionnaire

VAS : Visual Analog Scale

Table2. Multiple regression analysis for SF-8(MCS)

Variable	β	Adjusted R ²	p
mHAQ	-0.234	0.065	0.003
The degree of self-confidence to cope with stress	0.216	0.120	0.007
Satisfaction with the relationship with healthcare professionals	0.162	0.139	0.044

< 目的 2 >

分析対象者は473人であった。登録後の勤務年数は 5.0 ± 2.1 年で、病院勤務は338人(71.5%)であった。そのうち所属部署は、外来189人(55.9%)、病棟108人(32.0%)、その他および未記入41人(12.1%)であった。積極的に実施している内容は、医師との連携、患者・家族の相談窓口、薬剤師との連携等であった。リウマチケア看護師として、医師との連携や患者家族への相談業務を積極的に実施しているものの、約8割が理想的な活動を行えていない現状が明らかとなった。職場の理解が得られず、本人が望まない人事異動により、RA患者と関わる機会が失われていることが推察される。専門外来などリウマチケア看護師の資格を活かすことができる部署への人員配置が求められている。

患者支援の支援内容の平均選択数は、「感染予防」が 5.0 ± 1.8 と最も多く「口腔ケア」は 1.2 ± 1.6 と最も少なかった。支援に対する自信は、「感染予防」が70.4と最も高く「口腔ケア」は37.6と最も低かった。「口腔ケア」の支援内容では、【口腔内の観察】が59名(29.1%)で最も多く次いで【洗口剤の紹介】40名(19.7%)、【実施していない】は92名(45.3%)であった。「口腔ケア」と「感染予防」に対する自信は、強い正の相関を示した($r=0.507$, $p<0.001$)。「口腔ケア」の支援に対する自信は、「口腔ケア」の具体的な支援内容10項目のいずれも支援あり群がなし群に比べて有意($p<0.05$)に高かった。

外来看護の患者支援では、「感染予防」や「薬」は自信を持って支援できているが「口腔ケア」は支援も自信も低く「感染予防」としての認識が低いことが示された。RA患者の「口腔ケア」の支援では、「口腔ケア」を「感染予防」として認識することや支援の中心である外来において患者支援できるような看護の支援の方向性を検討する必要があると考える。

表3：患者支援を実施する自信の程度 (n=473)

	平均値 ± SD	中央値
感染予防に関する支援	69.3 ± 19.6	72.5
薬に関する支援	65.5 ± 20.2	68.5
疼痛管理に関する支援	56.4 ± 21.1	55.0
精神的ケアに関する支援	54.5 ± 23.7	54.0
関節保護自信	49.7 ± 20.1	51.0
フットケアに関する支援	45.7 ± 27.2	49.0
口腔ケアに関する支援	40.3 ± 25.8	42.0

< 目的 3 >

健常人15名の平均年齢は、 59.0 ± 10.5 歳(平均年齢 ± SD)であった。対象者はすべて女性であり、合併症の詳細は、心臓病2名、高血圧4名、糖尿病2名であった。1日の歯磨きの回数の平均値は2.6回であり、朝食後と就寝前が多かった。歯ブラシ以外に歯間ブラシを使用している人が8名(53.3%)であった。歯周病学会チェック項目の比較の介入前後での比較を行った結果、介入前の中央値4、介入後の中央値2と有意差($p=0.009$)が認められた。しかし、プラークインデックスと唾液量については、介入前後で有意な改善は認められなかった。

また、PCR検査にてP.g菌、T.d菌、T.f菌、A.a菌、F.n菌を測定した。その結果、F.n菌(介入前6名から介入後10名)、次いでT.d菌(介入前4名から介入後6名)と介入後に基準値以上を示したものが認められた。患者群の方が、介入後に基準値以上を示すことが多かった。また、A.a菌は健常群には認められなかったものの、患者群には1名認められた。しかし、今回は健常群(15名)、患者群(3名)と対象者が少なかつたため、今後対象者を増やすとともに患者群においては、疾患活動性も測定していく必要がある。

<引用文献>

Lorig K, Ritter PL, Plant K. A disease-specific self-help program compared with a generalized chronic disease self-help program for arthritis patients. *Arthritis Rheum* 2015; 53: 950-7.

Lorig KR, Ritter PL, Dost A, Plant K, Laurent DD, McNeil I. The Expert Patients Programme online, a 1-year study of an Internet-based self-management programme for people with long-term conditions. *Chronic Illn* 2008; 4: 247-56.

Lorig KR, Sobel DS, Ritter PL, Laurent D, Hobbs M. Effect of a self-management program on patients with chronic disease. *Eff Clin Pract* 2001; 4: 256-62.

Ritter PL, Ory MG, Laurent DD, Lorig K. Effects of chronic disease self-management programs for participants with higher depression scores: secondary analyses of an on-line and a small-group program. *Transl Behav Med* 2014; 4: 398-406.

Yukawa K, Yamazaki Y, Yonekura Y, Togari T, Abbott FK, Homma M, et al. Effectiveness of chronic disease self-management program in Japan: preliminary report of a longitudinal study. *Nurs Health Sci* 2010; 12: 456-63.

E Matsuura, A Ohta, R Suematsu, H Inoue, et.al. Functional disturbance of the stress-adaptation system in patients with scleroderma. *Modern Rheumatology* 2011;21:397-405.

金子みね子, 荒木康子, 上拾石みえ子, 直塚美夜子, 立石綾子, 水野谷悦子: 外来通院患者の在宅療養上のニーズに関する実態調査, 日本看護管理学会誌, 4(1), 110-112, 2000.

Ogawa H, Itokazu M, Ito Y, Matsumoto K, Takigami I. Quality of life evaluated by Short Form-8 in patients with rheumatoid arthritis who were receiving infusion of infliximab. *Mod Rheumatol* 2009; 19: 27-32.

Pincus T, Summey JA, Soraci Jr SA, Wallston KA, Hummon NP. Assessment of patient satisfaction in activities of daily living using a modified Stanford Health Assessment Questionnaire. *Arthritis Rheum* 1983; 26: 1346-53.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 浜崎美和, 松浦江美, 折口智樹, 風浦吉江, 楠葉洋子	4. 巻 30
2. 論文標題 女性関節リウマチ患者のセルフマネジメントの実態とその関連要因	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 保健学研究	6. 最初と最後の頁 29-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 浜崎美和, 松浦江美, 楠葉洋子
2. 発表標題 女性関節リウマチ患者の抑うつに影響を及ぼす要因
3. 学会等名 第44回日本看護研究学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松浦江美, 浜崎美和, 楠葉洋子
2. 発表標題 女性関節リウマチ患者における健康関連QOLとセルフマネジメントの関連
3. 学会等名 第44回日本看護研究学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浜崎美和, 松浦江美, 川上純, 折口智樹, 中村英樹, 一瀬邦弘, 岩本直樹, 川尻真也, 古賀智裕, 岡田覚丈, 中島宗敏, 鈴木貴久, 寶來吉朗, 西野文子, 梅田雅孝, 高谷亜由子, 福井翔一
2. 発表標題 女性関節リウマチ患者のセルフマネジメントの実態とその促進要因
3. 学会等名 第61回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	折口 智樹 (ORIGUCHI Tomoki) (90295105)	長崎大学・医歯薬学総合研究科(保健学科)・教授 (17301)	
研究 分担者	中村 英樹 (NAKAMURA Hideki) (10437832)	長崎大学・病院(医学系)・講師 (17301)	
研究 分担者	上野 和美 (UENO Kazumi) (40404131)	長崎大学・医歯薬学総合研究科(保健学科)・准教授 (17301)	